

平成28年度全国学力・学習状況調査を踏まえた 分析と改善方策について

印南町立切目小学校

1 調査の概要

(1) 調査日 平成28年4月19日(火)

(2) 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(3) 調査内容

調査の対象 小学校第6学年 15名

教科に関する調査 国語、算数

- 主として知識に関する問題(A)
- 主として活用に関する問題(B)

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- 児童質問紙調査 ----- 学習意欲、学習方法、学習環境、
生活の諸側面等
- 学校質問紙調査 ----- 学校の教育活動全般についての取組や学校の
人的・物的整備の状況

2 教科に関する調査結果の概要

国 語

- 漢字を正しく読んだり書いたりすることは概ね良好であるが、文章の読み取りに課題がある。
- 目的に応じて文章の内容を捉え、要旨を書くことは比較的できているが、目的や意図に応じて自分の考えを書くことに課題がある。

(1) 国語A (知識)

- ◇漢字(お年玉を貯金する)を読むのは、すべての児童ができている。[A1]ー2 100%]
- ◇漢字(アサガオのたねをまく)を書くのは、ほぼすべての児童ができている。[A1]二1 93.3%]
- ◇公園案内図とパンフレットにある表とを関係付けて読み、希望に合うものを選択するは、ほぼすべての児童ができている。[A5] 93.3%]
- ◆ローマ字書いたり(りんご・あさって)読んだり(hyaku)することに課題がある。[A8]1 26.7%] [A8]2 40.0%] [A8]3 26.7%]
- ◆登場人物の人物像を説明するために、根拠となる表現として適切なものを選択することに課題がある。[A6] 53.3%]

(2) 国語B (活用)

- ◇目的に応じて、質問したいことを整理することは、多くの児童ができている。[B1]ー 86.7%]
- ◇目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むことは、多くの児童ができている。[B3]ー 86.7%]
- ◆インタビューメモを基にして質問の意図を捉えることに課題がある。[B1]二 40.0%]
- ◆インタビューメモを基にして、話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿った質問を書くことに課題がある。[B1]三 40.0%]

平均正答率(%)

学習指導要領の領域等	国語(A)	国語(B)
話すこと・聞くこと	80.0	55.6
書くこと	80.0	53.3
読むこと	73.3	75.6
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.3	—

全国平均に比べて5ポイント以上 上回る(青字)・下回る(赤字)

算 数

- 整数や小数、分数の計算は良好であるが、除数が1より小さいときに商が被除数より大きくなることや除数と被除数に同じ数をかけても商は変わらないことに対する理解にやや課題がある。
- 単位量当たりの大きさや基準量と比較量の関係を理解することに課題が見られる。

(1) 算数A (知識)

- ◇繰り下がりのある減法の計算 ($905 - 8$) は、すべての児童ができている。[A² (1) 100 %]
- ◇乗数が整数である場合の分数の乗法の計算をして約分すること ($(2/9) \times 3$) はすべての児童ができている。[A² (4) 100 %]
- ◇二つの数の大小関係を表す不等号を書くことはすべての児童ができている。[A³ (1) 100 %]
- ◆1を超える割合を百分率で表す場合において、基準量と比較量の関係を理解することに課題が見られる。[A⁹ (2) 53.3 %]

(2) 算数B (活用)

- ◇縦と横の長さを変えたとき正方形の面積を求める式と答えとして相応しい数値の組み合わせを書くことは、ほぼすべての児童ができている。[B¹ (1) 93.3 %]
- ◆示された除法の式を並べてできた形と関連づけ、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述することに課題がある。[B⁵ (1) 0 %]
- ◆図形を構成する角の大きさを基に、四角形を並べてできる形を判断することに課題がある。[B⁵ (2) 20.0 %]

学習指導要領の領域等	平均正答率 (%)	
	算数 (A)	算数 (B)
数と計算	82.7	46.7
量と測定	76.7	46.7
図形	76.7	31.1
数量関係	71.1	41.1

全国平均に比べて5ポイント以上 上回る (青字)・下回る (赤字)

3 質問紙調査の結果の概要

(1) 勉強が「好き」「どちらかといえば、好き」と思う児童の割合は、国語・算数ともに全国を上回る。

	国語	算数
学校	73.3	66.7
県	55.6	68.4
全国	58.3	66.0

(2) 授業の内容が「よくわかる」「どちらかといえば、よくわかる」と思う児童の割合は、国語・算数ともに全国や県を上回る。

	国語	算数
学校	93.4	86.7
県	81.2	82.6
全国	80.7	80.2

(3) 平日・休日ともに授業時間以外に全く勉強しない児童はいない。
しかし、1時間以上勉強をしている割合は、学校 40.0、県 61.6、国 62.5 で、学習時間の短い児童が多い。

	平日	休日
学校	0.0	0.0
県	3.8	14.5
全国	3.0	10.2

(4) 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを「工夫している」「どちらかといえば、工夫している」児童の割合は、全国・県より大きい。

学校	73.3
県	57.4
全国	62.3

(5) 「家の人と学校での出来事について話をしますか」について、「している」と回答した児童の割合は全国・県を下回る。

学校	46.7
県	52.6
全国	52.4

(6) 今住んでいる地域の行事に「参加している」「どちらかといえば参加している」と答えた児童の割合は、全国や県を大きく上回っている。これは、地域との連携を重視している本校の特色であり、児童が地域社会に関わっていこうとする意識が高いことがうかがわれる。

学校	93.3
県	63.5
全国	67.9

(7) 先生はあなたのよいところを「認めてくれている」「どちらかといえば認めてくれている」とすべての児童が答え、全国や県を上回っている。

学校	100.0
県	82.3
全国	82.6

(8) 学校のきまりを「守っている」「どちらかといえば守っている」とすべての児童が回答し、全国や県を上回っている。規範意識の高さがうかがわれる。

学校	100.0
県	91.7
全国	91.5

(9) 授業の復習を「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童は全国や県を上回っているが、予習については県を上回っているものの全国を下回っている。

	予習	復習
学校	40.0	60.0
県	39.7	53.0
全国	43.3	55.2

(10) 自分に「よいところがある」「どちらかといえばある」と答えた児童は、全国や県を大きく上回っている。

学校	93.3
県	77.3
全国	76.3

4 調査結果を踏まえた改善方策

(1) 国語科

- ・ローマ字の習得のために、3年生の指導だけでなく、高学年においても日常的にローマ字を読んだり書いたりする機会を設ける。
- ・問題文をしっかりと読み、問われていることを正確に把握する学習に力を入れて取り組む。
- ・目的に応じて、中心となる語や文章を捉えさせたり、要旨をまとめさせたりする学習を丁寧に扱う。
- ・様々な物語を読む機会を設け、登場人物の行動や会話などの叙述を基に人物像を捉えさせることを大切に指導する。
- ・図表やグラフから情報を読み取ること、そしてそれがどのように文章に表現されているかを捉えさせる学習の機会を多く取り入れる。
- ・字数制限やキーワードを押さえるなどにより、目的に応じて自分の考えや説明を文章で書き表せるトレーニングを日常的に行う。

(2) 算数科

- ・□を使った文字式になるととまどう様子が確認されているため、具体的な数字を入れて考えさせるなど、□を使った式に慣れさせる。
- ・割合を使った問題を考えさせるため図を用いたり、答えの見当を付けさせたりするなどの指導を大事に行う。そのときに基準量と比較量の関係をしっかりと理解させる。
- ・日常生活の事象の解決に、割合や単位量当たりの大きさを活用することにより、その考え方が持っているよさや働きに関心を持たせる指導を行う。・グラフを読み取るために1目盛りが表している数量をしっかりと把握することを丁寧に指導する。
- ・問題文をしっかりと読み、問われていることを正確に把握するためにそのイメージを数直線などを用いて表現することを丁寧に指導する。
- ・授業の中で分かったことを文章で表現する力を付けるために、数学的なキーワードを使うなどして説明する活動を意図的に数多く取り入れる。